

# 新たなエネルギーシステムの構築

資源エネルギー庁

平成27年11月

# 新たなエネルギーシステムの構築① (IoT×システム改革)

- 従来の集中電源に依存したエネルギー需給システムが見直され、これまで一方的に供給を受けるのみであった需要家側において、創エネ（分散型電源）・蓄エネ（蓄電池）・省エネ（デマンドリスポンスなど）といった各種のエネルギーリソースの普及が拡大。
- また、電力・ガスシステム改革により従来の市場の垣根を越えた新たな競争環境が整う。これとIoTとが融合することにより、新たなエネルギーサービスの出現が期待される。

## ① 需要家側のリソースの普及拡大

- ・太陽光、蓄電池、デマンドリスポンス など



## ② 電力・ガスシステム改革

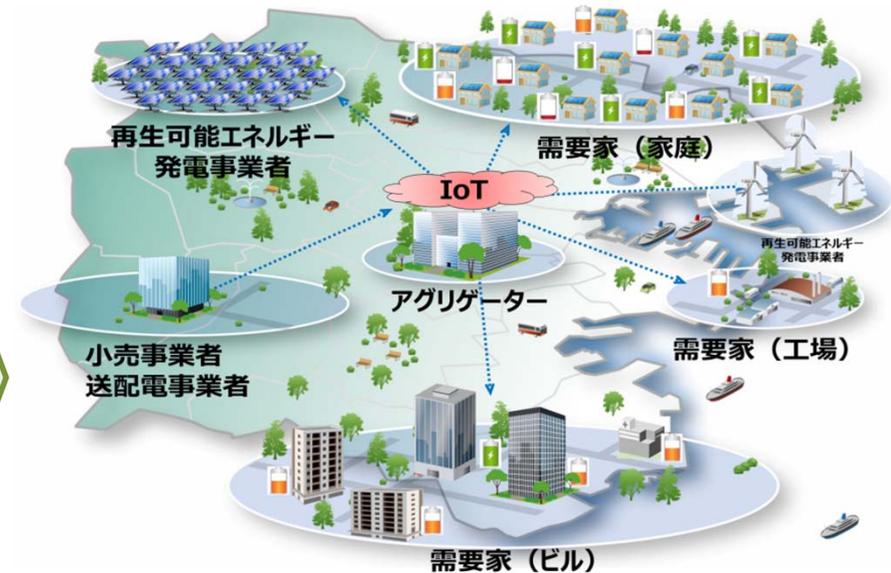
- ・エネルギー市場の開放、多様な事業者の参入



## ③ IoTの進化

- ・蓄電池の群制御、EMS技術、自動制御 など

## IoTを活用した 新たなエネルギーサービスの創出



## 【今後の課題】

- ・実証等による技術の確立
- ・IoTを前提とした制度整備

# 新たなエネルギーシステムの構築②(水素社会の実現)

- 水素は、将来の二次エネルギーの中心的な役割を担うことが期待されており（エネルギー基本計画）、水素社会の実現に向けた官民のアクションプラン（水素・燃料電池戦略ロードマップ、平成26年6月）に基づき、取組を進めている。
- 家庭用燃料電池の普及拡大や燃料電池自動車の販売開始、水素ステーションの社会実装など、水素社会の構築に向けた取組が結実しつつある。
- 今後、未利用エネルギー（褐炭・再エネなど）由来の水素の製造、貯蔵・輸送、水素発電など水素利用の技術開発・実証や、設備導入支援など、**水素社会の実現のために、あらゆる政策ツールを戦略的に活用しつつ、官民で取り組みを強化・加速する必要。**

## ＜水素社会実現に向けた対応の方向性＞

